堅田元慶（かただもとよし）事績　資料(2023 7) by M.M

主な資料　毛利家臣堅田元慶の生涯と堅田家伝来小早川家文書　宮崎勝美

不詳：生まれた月日・幼名・母の名　元慶と名乗った時期・手腕及び才能（情報通であったらしい）

			第56代清和天皇の流れをくみ、臣籍降下(しんせきこうか)により源姓を賜った一族。源義光（新羅三郎）を祖とする。源氏の中でも最も有名な氏族を輩出した系統で、子孫に源頼朝・足利尊氏・武田信玄・今川義元・明智光秀がいる。 その子孫は甲斐源氏として甲斐国を中心に活動したが、その中の一人・安田義定は、源頼朝の御家人として活躍。しかし後に甲斐源氏の内訌（内輪揉め）を画策した頼朝の手によって謀反の罪を着せられ、暗殺された。その子安田義資も頼朝の手によって暗殺されたが、義資の孫にあたる安田元義が、大江氏に仕えて存続した。安田氏はその後も大江氏に仕えたが、鎌倉時代に在住している常陸国粟屋の地名を取って粟屋を称したとされる。 南北朝時代に入ると、大江氏の一族で毛利氏当主・毛利時親が南朝：延元元年/北朝：建武3年（1336年）に安芸国に下向した際に同行して安芸国に入った。これが**安芸粟屋氏**の始まりである。安芸に土着後、国人領主としての活動を開始し、一部は安芸武田氏にも仕えた。	毛利元就が当主となった頃の粟屋氏の当主は**粟屋元国**であった。一族は毛利氏に従って各々中国地方の各地を転戦し、毛利氏の勢力拡大に多大なる貢献をした。その中でも粟屋元親は毛利隆元の信任を得て、五奉行の1人となった。 **粟屋 元通（あわや もとみち）**は、戦国時代から江戸時代初期にかけての武将。毛利氏の家臣。天文6年（1537年）に元服し、毛利元就から偏諱を受けて粟屋元通と名乗る。天文17年（1548年）の備後国神辺城攻めに出陣したのを初め、天文24年（1555年）からの防長経略における下松への侵攻や須々万沼城の戦い、永禄10年（1567年）から永禄11年（1568年）にかけての伊予攻めなどで活躍した。それらの功績により、周防国岩国の代官も務め、元亀3年（1572年）の毛利氏掟内でも年寄衆として確認できる。宇喜多氏との戦いにも参加し、桂就宣らと共に備中国飯山城の守将となった。
西暦	**和暦**	**年齢**	**元慶及び周辺の動き**	**主な日本の出来事**
1553	天文２２年		**毛利輝元誕生**幼名は幸鶴丸（こうつるまる）毛利氏は尼子との戦いが続いていた	
1563	永禄６年		8月4日、当主である父・隆元が尼子攻めのさなか、安芸佐々部で急死幸鶴丸が11歳にして家督を継承（元就後見）	
1565	永禄８年		2月16日、幸鶴丸12歳。吉田郡山城で元服し、室町幕府の第13代将軍・足利義輝より「輝」の偏諱を受けて、輝元と名乗った 3月、輝元は毛利氏による尼子攻めに出陣し、4月の尼子氏の本拠地・月山富田城の総攻めで初陣を飾る	5月将軍・足利義輝が三好義継、三好三人衆、松永久通らに討たれる永禄の変が発生
1566	永禄９年		11月に尼子氏の当主・尼子義久が降伏	
1567	永禄１０年		2月、輝元（１４歳）は吉田郡山城へ凱旋 叔父の吉川元春や小早川隆景の2人、毛利氏庶家筆頭の福原貞俊、口羽通良を合わせた4人、いわゆる「御四人」が輝元の政務を補佐	
1568	永禄１１年	0	**粟屋元通の次男（三男とも）として誕生** 父元通：伊予攻めに従軍・帰国 毛利輝元１５歳	9月：2月に14代将軍に就任した足利義栄(31)が在位七ヵ月で死去。豊臣秀次／黒田長政／宗義智／伊達成実が生まれる。 10月：足利義昭足利義昭が15代将軍に任じられる。
1569	永禄１２年	1	6月、尼子勝久・山中幸盛ら尼子氏の残党が蜂起 毛利氏の主力は豊後の大友氏との戦闘のため、九州北部に展開中 6月に毛利氏の主力が九州北部に出兵中、但馬山名氏の支援を受けた尼子氏残党が出雲国に侵攻した際、信長は木下秀吉と坂井政尚を丹波へと出兵させて毛利氏を支援 10月、旧主家・大内氏の残党である大内輝弘が大友氏の援軍を得て、周防に侵入 信長：毛利氏と大友氏を調停し、和睦させる	5月：今川氏滅亡 家康に懸川城をあけわたす 10月：三増峠の戦い 信玄、氏康軍を破る

1570	永禄13年	2	1月、輝元は大内輝弘の乱を鎮圧したのち、尼子氏残党軍を討伐するため、元春、隆景らとともに吉田郡山城より大軍を以て出陣 輝元と信長の通交が始まる	4月：23日に元亀に改元。正親町天皇朝／足利義昭将軍　姉川の戦い、石山合戦（本願寺顕如、信長に蜂起）が始まる 6月：姉川の戦い 信長・家康連合軍が浅井長政・朝倉義景連合軍を破る
1571	元亀2年	3	毛利元就(75)死去 大友氏、尼子氏、三好氏、浦上氏などとの紛争が続く	9月：信長、比叡山焼き討ち 10月：北条氏康(57)死去
1572	元亀3年	4	父元通：毛利氏年寄衆に任官 備中国飯山城の守将となる 10月、輝元は義昭の仲介により、1月より勧告されていた備前の浦上宗景、宇喜多直家との和睦を実現	12月：三方ヶ原の戦い 信玄が家康を破る。
1573	元亀4年 天正元年	5	毛利輝元20歳 2月9日、輝元は義昭からの推挙を得て、朝廷から右馬頭に任じられた 12月に信長が浦上宗景に備前・播磨・美作の統治を認める朱印状を出した	7月：室町幕府滅亡 織田信長、将軍足利義昭の軍を倒し、幕府を滅ぼし、年号を天正と改元させる。 武田信玄死去(53)／浅井長政戦死(29)／村上義清死去(73)
1574	天正2年	6	3月以降、宇喜多氏が浦上氏と敵対関係に入る、5月に輝元は直家への支援を表明	9月：信長、長島で一揆勢二万人を焼き殺す。
1575	天正3年	7	父元通：毛利輝元より備後守の官途を与えられる 1月、輝元は尼子氏を支援していた但馬の山名祐豊・堯熙父子との同盟、いわゆる芸但同盟（芸但和睦）を成立。 6月、毛利氏は三村元親を攻め滅ぼし、同年9月には浦上宗景を居城・天神山城から追放。	5月：長篠戦い 信長・徳川家康徳川家康連合軍、武田勝頼武田勝頼を破る。
1576	天正4年	8	義昭が備後の鞆に亡命。輝元鞆幕府を創設	2月：信長、居城を安土城へ移す。 7月：第一次木津川海戦 毛利輝元水軍、信長水軍を破る。
1577	天正5年	9	この頃に輝元の近習として出仕したかも	信長に攻められ、信貴山城の松永久秀自害（68）。 織田方の羽柴秀吉が宇喜多直家の支城である播磨国上月城を攻略、尼子勝久と幸盛がその城に入った
1578	天正6年	10	4月に元春・隆景らに大軍を以て播磨に進軍、輝元は備中高松城に入る 18日に毛利氏は尼子氏残党が籠城する上月城を包囲 6月に毛利氏は高倉山で織田軍を破る 7月5日籠城していた尼子氏残党は降伏 輝元は安芸・周防・長門・備前・備中・備後・美作・因幡・伯耆・出雲・隠岐・石見、讃岐、但馬、播磨、豊前の一部を領有 信長に対抗しうる最大の勢力となる 11月4日、輝元と本願寺に対して、朝廷から信長と講和するよう正親町天皇の勅命が下されるも拒否 輝元上洛を断念	11月：第二次木津川海戦 信長方の九鬼嘉隆が毛利水軍を破る。上杉謙信死去(49) 11月：耳川の戦い 島津義久が大友宗麟を破る。
1579	天正7年	11	毛利秀元誕生 6月前後、備前の宇喜多直家が信長に通じて、毛利氏から離反 9月、伯耆の南条元続が宇喜多氏に続いて毛利氏から離反	3月：御館の乱 上杉景勝が上杉景虎を破る。徳川秀忠誕生 8月：家康、正妻の築山殿と嫡男の信康を殺害
1580	天正8年	12		3月、石山本願寺は三木城の開城を受けて、勅命による織田氏との講和に応じる 8月：信長、佐久間信盛父子を高野山へ追放 10月に鳥取城　秀吉の兵糧攻めにより吉川経家は自害
1581	天正9年	13		2月：信長、洛中で軍事パレード。

1582	天正１０年	14	**元服して、元勝と名乗る** **小早川隆景の養子として推挙されるが辞退する** **長門国堅田から「堅田」の名字を名乗る** 2月、毛利軍と宇喜多軍、備前児島に近い、八浜において合戦・勝利 5月　秀吉備中高松城の戦い水攻め 6月4日、備中高松城は講和により開城し、城主の清水宗治らは切腹	2月：甲州征伐 織田信忠織田信忠が信濃に進撃。3月に武田氏滅亡。武田勝頼戦死(37) 6月：本能寺の変　信長死去(49)／森蘭丸死去(18)／織田信忠死去(26)／ 山崎の戦い 豊臣秀吉羽柴秀吉、光秀を破る。光秀死去(55?) 清州会議 秀吉・柴田勝家らが織田信忠信忠の嫡子三法師を織田氏の後継者とする。
1583	天正１１年	15		賤ヶ岳の戦い 秀吉、勝家を破る柴田勝家自害(62)
1584	天正１２年	16		2月：天正遣欧使節がローマ教皇に謁見。大坂城、聚楽第の築城 3月：沖田畷（おきたなわて）の戦い 龍造寺氏対有馬・島津連合軍 龍造寺隆信戦死(56) 4月：小牧・長久手の戦い 家康・織田信雄織田信雄連合軍、秀吉軍を破る
1585	天正１３年	17	小早川隆景伊予の国へ移封。 **本拠地の三原城城主となる。** 父元通、家督を嫡子・元定に譲る 1月、輝元は秀吉との国境画定に応じ、毛利氏は安芸国、備後国、周防国、長門国、石見国、出雲国、隠岐国7ヶ国に加え、備中・伯耆両国のそれぞれ西部を領有することとなった 3月、輝元は秀吉が根来衆などを討伐する紀州攻めに毛利水軍を差し向ける ５月輝元は秀吉の長宗我部氏に対する四国攻めに協力	7月：秀吉、関白・従一位叙任 8月：四国制圧 豊臣秀長豊臣秀長、長宗我部元親長宗我部元親を服属 9月：秀吉、唐入を表明 11月：長浜に大地震
1586	天正１４年	18	8月、輝元は秀吉の島津氏に対する九州攻めに参加	
1587	天正１５年	19		
1588	天正１６年	20	**7月：輝元と共に上洛。** **秀吉に謁見し豊臣姓を与えられる** **7月26日：従五位下、兵部少輔に叙任される** **7月28日：輝元の参議任官式が宮中で行われる。冠と赤装束を着用し輝元の供として従った**	
1589	天正１７年	21	輝元：広島城の工事開始	
1590	天正１８年	22	2月、秀吉が後北条氏に対する小田原征伐で関東へと赴く、輝元はその留守を預かり、京都警固を務めた	
1591	天正１９年	23	所領として安芸国・周防国・長門国・出雲国の4ヶ国に渡って7438石9升 3月、輝元は秀吉より知行目録を与えられ、112万石の所領を安堵	
1592	天正２０年	24	**文禄の役：輝元に従って朝鮮へ出兵** **元慶の家臣2名が博多の市中の者と口論になって、最終的に博多の豪商神屋宗湛を打擲してしまうという事件が発生。輝元は先手を打って当事者である元慶の家臣2名を処分し、神屋宗湛には治療費用として見舞銀を送っている。さらに元慶が騒動に巻き込まれて秀吉奉行衆の追及を受けることを避けるために、元慶を船に隠して壱岐国へと渡海させた**	1月：豊臣秀吉秀吉、朝鮮を経て、明国へ出兵指令を諸大名に下す。 4月：日本軍、釜山上陸 5月：泗川海戦：李舜臣、秘蔵の亀甲船で日本水軍を撃破 文禄に改元 輝元率いる3万の軍勢は六番隊として朝鮮に入り、5月に星州に布陣 輝元は七番隊として慶尚道を制圧することとなった。毛利軍は同月の茂渓の戦いや8月の第一次星州城の戦い、9月の第二次星州城の戦いなど、慶尚道において朝鮮軍と激戦を繰り広げた

1593	文禄2年	25	3月、日本と朝鮮の援軍たる明との間で講和交渉が進められると、8月に輝元は朝鮮から帰国 **毛利氏の中央行政は、元慶、佐世元嘉、二宮就辰、榎本元吉、張元至の5人の輝元出頭人が担うこととなる**	行長の家臣・内藤如安、「秀吉の降伏文書」(勝手に作成されたとされる)を携えて、北京で明皇帝に拝謁 2月、秀吉は明との和平交渉が決裂したことで再度の朝鮮出兵を命じ、西国諸将に動員令が発せられ、7月より戦闘が開始された。このとき、輝元は壱岐まで下向するも、病身のため、10月に秀吉の命により帰還した。そのため、養子の秀元が輝元の名代として、朝鮮に渡海した。この時の兵力は文禄の役と同じ3万であり、秀元もまた輝元と同様に各地で奮戦した
1594	文禄3年	26		秀吉、大坂城を秀頼に与えるため、伏見(桃山)に城を築く
1595	文禄4年	27		7月、秀吉の甥で関白・豊臣秀次が高野山で切腹　輝元との誓約が疑われた
1596	慶長元年	28	**輝元と共に度々上洛して取次役を務めたり、毛利氏奉行人連署奉書に加判したりする等の活動を行った**	和議交渉決裂。日本再出兵・慶長の役へ 11月:秀吉、キリスト教二六人を長崎で処刑
1597	慶長2年	29		2月:秀吉が日本の諸将に対して朝鮮再出兵の陣立てを定める 9月16日:鳴梁海戦(李舜臣対藤堂高虎ら) 12月～年明け:蔚山の戦い(明・朝鮮連合軍対加藤清正ら)
1598	慶長3年	30		3月15日:醍醐の花見(秀吉が醍醐寺三宝院で観桜の宴を催す。) 8月18日:秀吉死去 10月25日:徳川家康家康ら五大老及び石田三成三成ら五奉行、朝鮮の日本軍に帰国を指示。 泗川の戦い(明軍対島津義弘) 11月:順天の戦い(明劉綎・陳璘並び朝鮮権慄・李舜臣対小西行長) 同月15日:露梁海戦(李舜臣・陳璘VS島津義弘ら)
1599	慶長4年	31	秀就(20歳):豊臣秀頼を烏帽子親とする形で元服し、その偏諱を受けて、秀就と名乗った。また、秀頼の近侍となり、豊臣姓を与えられた。	1月:豊臣秀頼秀頼、伏見城より大坂城に移る。
1600	慶長5年	32	**組頭と大和守に任じられる。関ヶ原の戦いにおいては、四国方面の経略を進めると共に、輝元の側近として大坂城に入って各方面へ輝元の指示を伝える。** 7月15日、輝元は三奉行からの書状を受け取り広島を出発。7月19日には大坂城に入城した。醍醐寺三宝院門跡・義演の記した日記『義演准后日記』7月19日条よると、その兵力は6万。 岩国の吉川広家が徳川と密約を結ぶ 輝元・秀就:家康の説得を受け入れ、本領安堵と引き換えに大坂城を退去 **戦後処理に奔走する** 輝元の書状が多数発見され嫌疑が深まる	2月:宗義智、小西行長らと朝鮮に和議の書を送り、捕虜百数十人送還。 5月5日:朝鮮の学者姜沆、対馬を出発。同月一九日、釜山に着く。 9月15日:関ヶ原の戦い
1601	慶長6年	33	**9月から輝元の嫡子毛利秀就と共に証人(人質)として江戸に住むこととなる。**	
1602	慶長7年	34	堅田家は所領を6000石ほどに削減	
1603	慶長8年	35	一時帰国が許されるようになる	2月12日:家康、征夷大将軍に任じられる。 江戸幕府開府
1604	慶長9年	36	秀就(25歳):築城が始まった萩城に、築城者である輝元とともに入城	日本橋を五街道の基点として諸街道の整備と修理を行う。同時に一里塚を設置する

1605	慶長10年	37		3月：松浦大師来日し徳川秀忠秀忠と伏見で謁見。通信使派遣、捕虜の送還など合意。 4月16日：秀忠、征夷大将軍に任じられる。
1606	慶長11年	38		全国の大名に命じ、江戸城の大増築をはじめる。駿府城築城のため、駿府を巡検し候補地を探し川辺計画が浮上する。
1607	慶長12年	39	父元通死去	3月：島津家久 琉球侵攻 観世と金春の両家が江戸城で演能を行う。この時は町人にも観覧が許された。 出雲阿国が江戸城で歌舞伎踊りを上演した。 9月江戸城の天守と大手門が完成する。
1608	慶長13年	40	秀就（29歳）：大御所・家康の命によって、家康の次男・結城秀康の娘の喜佐姫を正室に迎え越前松平家の一門となり、松平長門守を称した	幕府が小石川伝通院を造営する。 11月江戸城での浄土・日蓮両宗の宗論で日経を処罰する。 姫路藩主。池田輝政が姫路城を改築する。
1609	慶長14年	41		家康の勧めで、豊臣秀頼が方広寺大仏殿の再建に着手する。 5月琉球王・尚寧が薩摩に降伏する。 7月オランダ船の通商を許可する
1610	慶長15年	42	**周防国山口の瑠璃光寺の元住持秀山を誘い、江戸に瑠璃光寺を創建** **国元より妻子を呼び寄せる**	家康が諸大名の普請役で名古屋城を築城する。市街地の造成を行い9月に完成 8月8日：琉球中山王・尚寧王が家康に、28日に江戸で秀忠将軍に謁見。
1611	慶長16年	43	秀就（32歳）12月、江戸での証人としての勤めを終えて幕府から帰国を許され、初めて領国に入る。その際に、幕府より10万石の役儀を免ぜられ、馬、小袖、銀子などを拝領している。これらの幕府の処置に対し、輝元は福原広俊への書状で感謝の意を漏らしている	3月28日：家康と秀頼の二条会見。 4月：家康、条令三か条を西国大名に示し、誓詞(せいし)を出させる。 加藤清正死去（50）
1612	慶長17年	44		江戸幕府が江戸・京都・駿府を始めとする直轄地に対して禁教令を布告し、教会の破壊と布教の禁止を命じる。
1613	慶長18年	45	秀就（34歳）1月、再び江戸に赴いて2代将軍・徳川秀忠に謁見し、翌年まで桜田の毛利邸に滞在	9月：伊達政宗伊達政宗が家臣・支倉常長をローマに派遣 12月：金地院崇伝がキリスト教禁止の草案を作る。宣教師や信徒への弾圧が行われるようになる。
1614	慶長19年	46	10月18日に輝元の命を受けた神村元種が密かに下野小山藩主・本多正純と会見し、秀就の弟・就隆も出陣すべきかを協議した。その結果、就隆だけでなく輝元、秀就、秀元も出陣することで意見が一致したため、正純は10月24日に輝元へ出陣を要請 12月6日、秀就は秀元と共に大坂に到着して、茶臼山に布陣した家康や西宮の輝元と会見した後に、大坂へ布陣した。秀就は大坂冬の陣に参戦し、これが秀就の初陣となった	11月：大坂冬の陣 12月19日、徳川方と豊臣方の間で講和が成立し、大坂城の堀の埋め立て普請開始

1615	元和元年	47	1月23日、大阪城の堀の埋め立てを完了し、1月下旬には秀就も秀元と共に帰国 5月10日、秀就は兵庫を経て西宮に着陣したが、既に5月8日に大坂城が陥落して大坂夏の陣は終戦しており、家康も二条城へと凱旋していた。そこで、伏見から秀就を出迎えた福原広俊の意見に従って、5月11日に伏見で本多正信に面会し、進退についての指示を求めた。 正信は早々に家康に謁見することを秀就に勧めたため、5月12日に毛利秀元と吉川広正を伴って二条城で家康に謁見し、大坂城攻撃に間に合わなかったことを謝罪した。しかし、家康はそもそも毛利へ出陣命令を出すことが遅れたことが原因であるとして不問としたため秀就は安堵し、伏見の毛利邸に暫く滞在した。家康は秀就が遠国から急行した労を謝して、同年7月には暇を出し、秀就は直ちに毛利秀元や吉川広正をはじめとする毛利の全軍を率いて帰国。 大坂の陣の後、輝元は大坂の陣の軍役や江戸城などの手伝普請、江戸藩邸の建設でかさむ借財や、関ヶ原以後に生じた家中の分裂を解消すべく腐心した	4月26日：大坂夏の陣が始まる。（豊臣方、大和郡山城を陥落させる。） 5月8日：秀頼(23)と淀殿(49)自害し、豊臣氏滅亡。 8月：江戸幕府が一国一城令を発令 9月：江戸幕府が禁中並公家諸法度を発布。
1616	元和2年	48	輝元は家中融和の策として、一人娘の竹姫を吉川広正と婚姻させる	4月徳川家康死去
1617	元和3年	49	11月輝元：繁沢元景の媒酌により次男・就隆と秀元の長女・松菊子を婚約させる	7月：第二回朝鮮通信使来日。大坂平定を賀す
1618	元和4年	50	8月25日、輝元は清水元親らに命じて、かねてから対立していた吉見広長を追討・殺害した。	
1619	元和5年	51	輝元赦免と帰国許可を願い出る。元慶と親しく、幕府年寄への取り次ぎを行った柳生宗矩の書状によれば、土井利勝は赦免に理解を示したものの、本多正純は帰国中の毛利秀就が江戸に出府してからでなければ元慶の帰国は認められないと主張したため、帰国の願い出は認められなかったという	広島城の福島正則が信濃川中島へ改易。 8月、輝元は健康の悪化も顧みず、5月に上洛していた将軍・秀忠に面会して大坂の陣以来の毛利氏に対する好意を謝すため、合わせて今後のことも宜しく依頼するため、あえて上洛に踏み切ったとされる
1620	元和6年	52	**3月頃に発病　長男虎丸元服(弥十朗就政)８歳**	
1621	元和7年	53	就政：秀就に伴われて秀忠に謁見 **元慶、酒井をはじめ諸大名に挨拶回り**	
1622	元和8年	54	**9月27日に江戸で死去**	
1623	元和9年		江戸の妻子帰国を許される 9月、輝元は正式に秀就へ家督を譲渡	7月27日：家光征夷大将軍に任じられる
1624	寛永元年			
1625	寛永2年		輝元：4月27日に萩で病没。享年73（満72歳没） 嫡男の就政は、幼少のため所領を周防国都濃郡の湯野村・戸田村・莇地村と長門国大津郡日置村の4500石に減転封され、周防国湯野（現在の周南市湯野。湯野温泉付近）に移住した。子孫は同地で明治維新を迎えている。	

他資料
粟屋元通
https://ja.wikipedia.org/wiki/粟屋元通
粟屋さんの名字の由来
https://name-power.net/fn/粟屋.html
粟屋さんの名字の由来や読み方
https://myoji-yurai.net/searchResult.htm?myojiKanji=粟屋
粟屋氏
https://ja.wikipedia.org/wiki/粟屋氏
堅田元慶
https://ja.wikipedia.org/wiki/堅田元慶
信長Wiki https://www.nobuwiki.org/character/katada-motoyoshi
堅田元慶の概要
https://www.weblio.jp/wkpja/content/堅田元慶の概要
毛利輝元
https://ja.wikipedia.org/wiki/毛利輝元
毛利輝元とは？
https://history-men.com/mori-terumoto/
天正・文禄・慶長
https://www.weblio.jp/content/